

日時	平成29年11月8日(水) 15:30~16:45		
部会名	鑑賞部会	主任	曳田 裕子(白幡小)
参加数	13名	司会	曳田 裕子(白幡小) 記録 原田 愛子(新橋小)

鑑賞部会テーマ

音楽のよさや面白さ、美しさを自ら感じ取り、聴き味わう鑑賞活動

研究仮説

子どもの実態や教材分析をもとに学習展開を工夫することにより、子ども自らが音楽の面白さ、美しさを感じ取り、聴く喜びを感じ取ることができる。

(研究内容)

《研究授業の指導案検討 (模擬授業を通して)》 山下 明子先生(下野庭小)

歌詞の意味や語感に慣れ親しみ、意欲が高まるよう、音読の宿題を「待ちぼうけ」に設定した。

第1時 ◎ 言葉と旋律のかかわりに気を付けて、楽曲の特徴を感じ取る。

第2時 ◎ 表現の工夫のよさを見つける。

中心教材(加賀清孝氏演奏) 参考教材(平野忠彦氏演奏)

- ・第2時(本時)では、中心教材を扱い、歌い方(表現)の工夫について学習する。

(第2時(本時)の流れをもとに模擬授業を行った)

①CDの演奏から、表現の工夫を聴き取り、学習カードに書く。

②グループで共有。

③全体で共有。

④なぜ工夫しているのかについて学習カードに書く。

⑤グループで共有。

⑥工夫によって伝わってくることについて、話し合う。

○協議

本時の流れや板書などについて

- ・楽曲を聴く回数。工夫の気付きについて共有や確認をするために確保すべき。
- ・子どもたちが聴き取ったり感じ取ったりしたことを、実際に歌って、試してみてもどうか。
- ・子どもの意識の流れを生かすために、第1時の学習を掲示するとよい。
- ・板書の工夫 項目によって、色分けをするとわかりやすくできるのではないかな。
学習カードと板書の統一
- ・学習カードのまとめ方 表現のよさ、学習のめあてとのつながりをもたせるとよい。

子どもの実態や教材分析をもとにした学習展開の工夫について

- ・この曲のよさは、物語性があること。言葉と旋律が一体となっていることで、歌い手が豊かに表現を工夫できることであるととらえる。
- ・第1時の学習で歌詞の面白さ、物語の面白さ、主人公の気持ちの変化など、楽曲のよさをおさえて、第2時に進めていくとよいのではないかな。
- ・第2時の「表現の工夫を見つけて理由を考えよう。」という発問が、子どもたちにとっては、難しいのではないかな。
- ・子どもたちが、歌い手(加賀さん)になりきって、表現のよさについて考えるのはどうか。
- ・話型を示すのはどうか。

例)「 を工夫したのは、 (様子・気持ち)を表したかったからです。」等

学習計画（2時間扱い）で、ねらうことについて

- ・「楽曲のよさ」と「表現・演奏のよさ」どちらをねらいにするのか？

案1 表現のよさを通して、曲の特徴・よさを感じ取らせる。（指導事項ア）

案2 「表現のよさ」「演奏のよさ」をねらいにする。（指導事項ウ）

（楽曲の特徴・よさについては、第1時に取り扱う。）

- ・2時間扱いにする意味を考え、聴かせ方（いつ聴くのか。聴きながら書く。確かめながら聴く。友だちが感じ取ったことを確かめるなど。聴く回数。）を検証し、吟味した方がよい。

